

コマノカミの頭

上越 | 南尾根から北尾根

1992.2.15~16 鈴木鉄也

晴れて、暖かい土曜の夜に、土樽駅の前でテントの中で寝る。

積雪量は多くはない。堰堤を過ぎる。

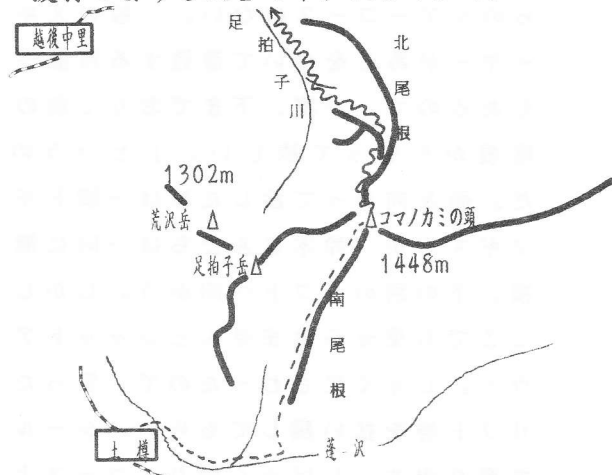
足拍子側に入る沢で、林道が一旦途切れる。その先の取り付き易そうな斜面を、戻り加減に登る。コマノカミ南尾根は、900m位まで、木が混んだ急斜面で登りにくい。取付きは沢筋から廻り込んで上がった方が良かったかも知れない。

登るに連れ、尾根筋は明瞭となり、木も疎いてくる。スキーアイゼンが欲しい所だ。気持ちよく晴れた中、蓬峠、武能岳、茂倉岳を遠く望める。足拍子岳の3つのピークも見え始めた。足拍子岳～シシゴヤの頭からの稜線と合する辺りは、スノーリッジとなり、最後の10mは、キックステップで足場を堅めながら登った。アイゼンが欲しい所だ。悪天時は厳しいかも知れない。僅かの間、そのままスキーの板を引きずって行った。又、着け直している間に、張り出してきた雲と共に、雪がちらつき始めた。下降予定の北尾根は上半分は見えていたが、間もなく、全く見えなくなってしまった。

下る場所は、間違えなかったと思うが、先が、不明瞭となる。尾根らしい所を降りたと思ったが、違うようだ。左右とも尾根のように思える。そのまま、真っ直ぐ降りた。天気さえ良ければ、思いきって滑れる場所だ。何となく左に寄り過ぎ

た気がして、右に斜滑降して行く。幾筋にも沢状が続き、そこを越して行くのも難儀である。また右、左に尾根らしいのが見える。もう、どっちでもいいやという気分で、沢筋を楽しむ。「早めに、降りたら、下の平坦地は苦勞するだろうか？」とか、「沢筋も途中から尾根に戻るのも、一苦勞だろうか？」などと、一人言のようなことを考えながら、何となく滑り降りて行く。踏み跡があった。人間のもののようにも見える。獣にしては、結構大きなものだ。しっかり雪崩そうな場所を避けている。これはと思うような所を行ってるので、従った。

うまい具合に、林道らしい所に出られた。やはり早めに、左側に降りてしまったようだ。旭原に上がって行く道との分岐の所でシールを着け、足拍子沢に沿った道を歩く。車道に出ると、除雪してある。右手の台地から滑り降りて終了。ボタン雪がドバドバと降り始め、地面が波打つような大雪の中、駅まで歩く。



土樽駅 5:56 → コマノカミの頭 10:00 →

→ 林道600m 12:07 → 岩原スキー場前駅 14:18